

## 『源氏物語』「須磨の秋」テスト問題

【二】本文について、設問に答えよ。

前栽の花いろいろ咲き乱れ、おもしろき夕暮れに、海①見やらるる廊に出で給ひて、たたずみ給ふ御さまのゆゆしう清らなること、所がらはましてこの世のものと見え給はず。白き綾②のなよやかなる、紫苑色など奉りて、こまやかなる御直衣、帯しどけなくうち乱れ給へる御さまにて、「釈迦牟尼仏弟子」と名のりてゆるるかに誦み給へる、また世に知らず聞こゆ。沖より舟どものうたひののしりて漕ぎ行くなども聞こゆ。ほのかに、ただ小さき鳥の浮かべると見やらるるも心細げなるに、雁の連ねて鳴く声、楫の音にまがへるを、うちながめ給ひて、③涙のこぼるるをかき払い給へる御手つき、黒き御数珠に映え給へるは、ふるさとの女恋しき人々の、心みな慰みにけり。

W 初雁は恋しき人の列なれや旅の空飛ぶ声の悲しき

とのたまへば、良清、

X かき連ね昔のことぞ思ほゆる雁はその世の友ならねども

民部大輔、

Y 心から常世を捨ててなく雁を雲のよそにも思ひけるかな  
前右近将監、

Z 「常世出でて旅の空なるかりがねも列におくれぬほどぞ慰む

④友惑はしては、いかに侍らまし。」と言ふ。親の常陸になりて下りしにも⑤誘はれて、参れるなりけり。下には思ひくたく⑥べかめれど、誇りかにもてなして、⑦つれなきさまにし歩く。

問一 次の語句の読みを、ひらがな（現代仮名遣い）で答えよ。

①前栽 ②紫苑 ③直衣 ④常陸

問二 傍線部①を文法的に説明したものとして、最も適切なものは次のうちどれか。

- ア ヤ行四段活用動詞＋自発の助動詞
- イ ラ行四段活用動詞＋自発の助動詞
- ウ マ行上一段活用動詞＋受身の助動詞
- エ ヤ行上一段活用動詞＋受身の助動詞

問三 傍線部②の用法として、適切なものは次のうちどれか。

ア 主格 イ 連体修飾格 ウ 同格 エ 体言の代用

問四 傍線部③とあるが、その「手」はどのような手だと推測されるか。

- ア 男性らしく、綺麗な手。
- イ 女性らしく、白い手。
- ウ 男性らしく、美しい手。
- エ 女性らしく、幼い手。

問五 W、Zの歌に共通して詠まれていている心情を漢字二字で書け。

問六 傍線部④・⑤・⑦の現代語訳として、最も適切なものを各々選択肢から選び、記号で答えよ。

④「友惑はしては、いかに侍らまし。」

- ア もし友を騙してしまえば、どのように謝れば良いでしょう。
- イ もし友を惑わしては、どのように生きましょう。
- ウ もし友を失っては、どのようにお仕えしましょう。
- エ もし友を見失っては、どのようにございましょう。